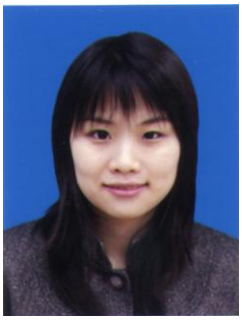
登別市の観光行政を学んで



受入自治体：北海道登別市
氏　　名：張　晶
出　身　国：中華人民共和国
研　修　先：登別市役所

1．はじめに：

私は天津市人民政府外事弁公室に勤務し、国際交流の推進に関する仕事を担当している。大学で四年間日本語を勉強して、２００７年から今の仕事に従事してきた。しかし、実際の仕事の中で、自分の語学力の不足や日本に対する理解の不十分さを痛感し、これからは中日双方の友好関係をさらに推進して、お互いの理解を一層深めることが私たちの役目だとしみじみ感じた。

今回、私は平成２２年度自治体職員協力交流事業の研修員として日本にくるチャンスをいただいた。私は今まで日本を何度も訪問したことがあるが、北海道は初めてだ。観光資源が豊富で、優れた自然に恵まれた観光名所の北海道及び湯の国と呼ばれる登別市において、ここの観光行政はどのような実態なのか、どういうふうに運営しているかなどについて自分の目で見、体験し、研修生活を通じて、日本の伝統文化や観光現状をしっかりと学び、日本への理解を一層深めたい。

２．研修概要：

（1）全体研修（5月２３日から6月２３日まで）

５月２３日、私たち協力交流研修員は各国から日本に到着し、研修生活が本格的に始まった。５月２４日から２５日まで東京で研修して、開会式、オリエンテーション、日本語のレベルチェックなどを行った。都内視察では国会議事堂と参議院などを含む日本の代表的な施設を見学させてもらった。

５月２６日から6月２３日まで約１ヶ月間、滋賀県の全国市町村国際文化研修所（ＪＩＡＭ）で日本語の研修を受けた。日本語の勉強をはじめ、日本地方自治講義、行政課題講義、日本の伝統文化や礼儀などについてさまざまな知識を学んだ。さらに、ジャスコ、オムロン工場を視察し、周辺の京都、奈良、彦根城などの観光名所を見物するなどして、大変勉強になった。研修の最終日に、成果発表会の舞台で、私たち研修員は１ヶ月間苦労して身につけた日本語の知識を利用してプレゼンテーションを見事に行って見せ、好評を博した。

（2）専門研修（6月２４日から１１月１６日まで）

６月２４日に登別市に着任して、約５ヶ月にわたる専門研修が始まった。

①　一般行政研修

はじめの一ヶ月間、私は登別市役所で一般行政研修を受けた。毎日、市役所各セクション（総務部、市民生活部、保健福祉部、観光経済部、都市整備部、教育委員会、議会事務局、消防などが含まれる）の担当者からそれぞれの行政課題とその取り組みについて詳しく説明してもらった。また、市内の小学校や幼稚園、市民会館、市民活動センター、市民プール、クリンクルセンター（ごみ処理施設）、老人福祉センターなど関係施設も見学し、市の行政情報について全般的に把握することができた。特に消防研修の中で、消防士の専

用服を着，梯子に乗せてもらって、高いところまで運ばれた経験が深く印象に残った。

②　観光行政研修

７月２６日、登別温泉町に位置する観光振興グループに移動して、観光行政研修が始まった。

実務研修：毎日、観光振興グループの一員として、同僚と同じように実務の仕事をしていた。時には、登別市と隣の白老町がともに行った観光連絡協議会に参加した。会議の目的は、登別市と白老町の観光の更なる振興に資し、両市町の観光資源や施設、産業の関連を深め、当地域の個性を生かした多様な観光地作りを推進することにあるのだ。また、登別洞爺広域観光圏が主催する中国人誘客戦略検討会にも出席して、関係者と率直な意見を交わした。さらに、登別伊達時代村、登別グランドホテルと登別マリンパークで実務研修を行った。観光施設とホテルの現場に身を置いて、各国からの観光客と直接に接触しているうちに、観光研修の本旨が深く吟味できるような気がした。

登別伊達時代村にて

視察研修：今度の研修課題に合わせて、登別市の温泉街、地獄谷、大正地獄、奥の湯、日和山、大湯沼天然足湯、登別マリンパーク、登別伊達時代村、クッタラ湖やオロフレ峠などさまざまな観光名所を視察して、登別市の観光資源の魅力に深い感銘を受けた。

祭の参与：日本全国において、伝統的な祭りだけではなく、各地方では地元の特徴に合わせた独自の行事も行われている。今年は登別市市制施行４０周年という節目を迎え、豊水まつり、元鬼まつり、地獄まつり、刈田神社祭典、漁港まつりなどの伝統祭りを盛大に催し、また、盆踊り、クッタラ湖灯篭流しや地獄谷での鬼花火などの催しも行われた。日本の伝統文化と地元の風俗を身近に体得できた。その中で、８月に行われた地獄まつりは登別市の一番重要な伝統の祭りで、毎年何万人以上の参加者をひきつける盛大な地元まつりと言われる。祭りの日、私はスタッフの一員として、お昼から祭りの準備作業に参加し始め、忙しくて楽しかった。日本の祭りは主に民間からなる実行委員会が運営するというわけで、一般の市民を始めとする多くの人々から協力を得て、市民の参加意欲を高める一方、市政に大きな負担をかけずに済むと感じた。

③　道内、道外研修視察

観光研修の重要な一環として、北海道内外研修視察を行った。道内研修では、札幌の現代化に溢れた町、小樽のきれいな運河、富良野のラベンダー、有名な旭山動物園、そして函館の夜景などを見物して、北海道観光の魅力を再び感じさせてもらった。道外研修では、東京と千葉に行って、日本の一番繁栄な町に身をおいて、北海道の観光資源とは異なった点を味わうことができた。

中華料理教室にて

④　その他

研修の中で、中国語講座、中華料理教室や国際文化講座なども実施された。中国語講座では定期的に市役所の職員たちを対象に簡単な挨拶と基本的な文法知識を教えた。６回しか行わなかったが、職員たちが興味津々と積極的に参加してくれた。また、学生や一般市民に向けて、中国及び天津市の紹介を通

じて、皆さんに中国を深く理解してもらった。中華料理教室では市民の皆さんと一緒に水餃子を作って、雰囲気が盛り上がった。また、７月に中国広州市からの代表団の接待仕事に関わり、歓迎レセプションの通訳などを任せられた。

（３）課題と結論

登別市は登別温泉とカルルス温泉を抱える北海道有数の観光都市である。湧き出る湯量は豊富で一日１万トン、９種類の泉質を有し、温泉のデパートとも呼ばれている。温泉だけではなく、地獄谷、大正地獄、日和山というさまざまな観光名所を持つため、世界中の観光客を魅了している。今回の研修を通じて、観光を基幹産業とする登別市の観光方針、運営方法及び観光業への取り組みなどを深く理解できた。わが国は観光を国の重要産業として位置づけ、これから更なる振興を図ることが大きな課題になると思う。しかし、両国の観光業の現状を比較してみれば、相違が幾つか見つかった。

①　中国は数多くの観光スポットそれぞれに力を入れているのに対して、日本は当地域の観光資源を全体的に考えることが好きだ。例えば、温泉観光地にあるホテルに泊まったら、日本伝統的な和室や温泉を楽しむとともに、本場の日本料理も食べられる。また、周りにはさまざまな観光名所があり、散策し見物できるように工夫している。夜になると、花火などを楽しんだ後、ホテルに戻ってくる途中で、商店街を歩き買い物をするのも観光の楽しみの一つである。

②　中国の場合、観光ガイドの資格の取得は国家試験となっており、資格と等級に分けられている。それに対して、日本には同様な試験制度はないが、一部の有料ガイドのほかにボランティアのガイドも多いという。また、中国の試験の中で、観光に関する専門知識や外国語の試験も含まれ、プロのガイドになるために、比較的正式な訓練を受ける必要がある。

③　現在、中国は国内の観光客を重点として努めてきたのに対し、日本は中国人、韓国人など外国人観光客の受入をますます重要視して、色々工夫しているところだ。例えば、外国語が話せる係員を駅や店などに配置したり、外国語の観光パンフレットを観光案内所やホテルに置いていたり、百貨店や飲食店の営業時間をある程度延長したりするようになってきた。

中国と日本とは同じアジアにおける隣国であり、またそれぞれに独特な観光資源を持っている観光国でもある。最近、中国人観光客向けの個人観光ビザ発給緩和などにより、今後日本では中国人観光客の更なる増加が期待されていると思う。

３．終わりに：

時間が経つのは早いものだ。あっという間に、６ヶ月の充実した研修生活はいよいよ終わりを迎える。短い研修期間だが大きな収穫があり、私にとって、人生の貴重な思い出になり、これからも大切にしたいと思う。

近年来、中日両国の友好交流と経済関係がますます緊密化されてきて、各分野の交流事業も盛んに行っている。しかし、現在両国はお互いの理解の不十分なところも、交流や連携の足りない部分もあると実感した。これから、両国は自分の長所を最大に生かし、短所を補い合い、中日双方の相互理解を一層深めるように努力していくべきなのではないかと考えている。それに、私は研修で身につけた知識と経験を職場でうまく生かして、微力ながら、橋渡しとして引き続き努めていきたいと思う。

最後に、今度の事業にご尽力いただいた日本総務省、CLAIR、JIAM の皆様、また登別市小笠原市長をはじめとする市役所の職員の方々、観光協会の皆様、熱心な市民の皆様に対して、深く感謝の意を申し上げたいと思う。また再会できる日を楽しみにしている。

黄金の国　岩手

受入自治体：岩手県
氏名：馬雲
出身国：中華人民共和国
研修先：岩手県商工労働観光部産業経済交流課

１　本事業に応募した動機

大連市と岩手県は、平成１９年に「地域間連携の推進に関する協定」を、平成２０年には「公務員交流研修覚書」を締結し、職員の相互派遣などの交流を行っています。私にとって、今年の研修員として選ばれ、岩手に参りましたのは、身に余る光栄でありますし、深い喜びでもあります。

仕事の関係で日本に出張したことは何回もありましたが、長い時間滞在した体験はありません。この機会を通じて、自分の目で日本の事情を学びたいと思いました。日本語の上達より日本の社会や文化や生活に関する知識のほうが重要だと思います。諺に「百聞は一見に如かず」と申しますが、私は今回の研修を通じ、先進国日本でいろいろな経験をし、大変勉強になりました。

２　研修の概要

⑴ 全体研修

５月２３日東京に着きました。それから三日間は、総務省の講堂での開幕式、オリエテーション、地方自治体の担当者と面談、日本語レベルチェック、国会議事堂視察などが行われました。

その後、滋賀県の JIAM で１ヶ月の日本語研修を受けました。その間、毎日、日本語の授業を受け、毎日宿題をするなど、まるで学生時代に戻ったようでした。日野商人会館、清水寺、二条城、博物館、金閣寺などを見学しました。立派な寺を見て日本の寺文化を理解できました。オムロンで見学した汚水処理方法は深く印象に残りました。日本の礼儀作法を習ったり、茶道を見学したりしました。最後の成果発表は、私たちの椿クラスが研究賞を受賞しました。それは、先生たちとみんなの協力のおかげです。この一ヶ月で、日本語が進歩しただけでなく、日本の政治や文化や歴史に対する認識が深まりました。

（２）専門研修

①ＮＰＯ・文化国際課

６月２８日から７月２日までの一週間、ＮＰＯ・文化国際課で研修しました。専門研修の説明、県庁施設などの案内、岩手県の概況、県庁の組織、岩手県民計画、歴史と風土などを研修しました。

その一週間を通じて、岩手県に対する基本的な理解を深めることが出来たほか、日本の職場環境に慣れることが出来ました。

②産業経済交流課海外マーケットグループ

７月５日から産業経済交流課での実務研修を開始しました。商工労働観光部産業経済交流課は、岩手県内の産業振興、特に岩手県産品の販売促進や、県内企業と海

外との経済交流の促進に取組んでいる部署です。

職場の同僚と仕事の打ち合わせ

ア　県庁内の中国戦略プロジェクトチーム会議に参加しました。経済のグローバル化が急速に進展している中で、国内企業の国際競争力を高め、地域経済の活性化を図るため、中国を中心とする東アジアへの製品の販売や部品の調達などにおける、今後の岩手県の中国政策の取り組み状況を確認しました。

イ　日本政府観光局事業本部の長谷川次長による東アジアからの外国人観光客の誘致についての講演を聴きました。中国人向けの個人観光ビザの発給要件が大幅に緩和されたことで、日本に来る中国の観光客が増えることが期待出来ます。岩手県はとても自然に恵まれて日本の自然風景を代表する地方ですが、中国での知名度は他の県より低いです。それを改善するために、色々な仕事をしなければならないのです。まず、中国での PR を一層強化します。岩手県は、国際定期便を有していないので観光客にとって不便です。それは最大の問題だと思います。

ウ　大連市で行われた、日本宮城・岩手県（大連）経済貿易商談会に参加しました。商談会は、岩手県内企業のビジネスチャンスの拡大を図ることを目的に、今年で８回目の開催です。商談会では、参加した各企業が販売促進、食材の調達、部品の委託製造先の開拓などを行った結果、いくつかの会社は商談相手と契約に至り、両国の東北地域間の経済交流が深められました。

エ　大連市の夏徳仁書記一行が岩手県との定期友好協議のためご来県いたしました。私は司会の通訳を担当しました。両地域の指導者たちが、両地域の友好経済交流の為に努力する姿を目にして、大変感心しました。その時、自分は今後できるだけ力を入れて、両地域の友好交流の為に貢献しようと誓いました。

オ　大連海洋大学と岩手県水産技術センターとの学術交流会の学術発表を通訳として担当しました。この学術交流会は、大連海洋大学と岩手県水産技術センターが２００６年に「学術交流協議」を締結して以来、今回で５回目の開催となりました。学術交流が活発になり、成果も得られるようになりました。

　この機会を通じて、釜石湾でのホタテやナマコなど岩手自慢の海産品の養殖施設を見学し、大変勉強になりました。大連と岩手県は、ほぼ同じ北緯４０度に位置します。海産品の養殖の面で、色々な共通点を持っており、お互いに技術交流するのは有意義だと思います。

カ　岩手県に来たばかりの時、岩手県のある特産品をよく目にしました。それは南部鉄器です。上海万博で岩手県の南部鉄瓶と雲南のプーアル茶を共同出展していたので、南部鉄瓶の知名度が上昇してきました。台湾の出版社の記者が、南部鉄瓶祭取材の為に来県した際には、一週間にわたり通訳として県内を案内しました。色々な南部鉄器工房やコレクターなどを訪問させてもらいました。伝統的な技術ですが、今では販路の低迷と後継者がいないなどの悩みがあるそうです。中国の注目を浴びるためにも、各工房は積極的に販路を開拓し、後継者を養成すべきだと思います。

キ　岩手ホテル＆リゾート及びホテル東日本と中国四川省の錦江賓館が、日中酒店研修・友好交流事業協議書を調印しました。それぞれのホテルが研修生派遣や観光客誘致事業などに関する覚書を交わしました。四川錦江賓館ご一行が来県視察した際、私は通訳として一緒に岩手県の観光地を回りました。

（３）文化観光体験

岩手には、平泉文化を中心とした歴史的遺跡があります。国宝「中尊寺金色堂」を見学しました。岩手県自慢の小岩井牧場には何回も行きました。綺麗な空気を吸って青空を見ると気持ちが良かったです。盛岡手作り村は、伝統的な技術を保護する上で優れた方法です。安比高原、浄土ケ浜は、いい自然に恵まれた観光地です。秋の八幡平国立公園は紅葉に飾られ立派な風景です。岩手県の食文化では、「じゃじゃ麺」と「わんこそば」がとても印象に残りました。それは、美味しいだけでなく、食べる方法が凄く面白いからです。

名物「わんこそば」に挑戦!!

３　帰国後の展望

光陰矢の如しですが、私は色々な経験をすることが出来ました。日本人の仕事に対するやる気満々の姿、伝統文化、社会制度、美しい自然風景も私に深く印象に残りました。日本での生活は、私にとって一生忘れられない思い出です。

帰国後は、日本で学んだ経験を仕事に活かしたいと思います。

また、微力ですが、大連市と岩手県の友好交流に尽力していきたいと思います。

最後に、CLEAR の皆様、JIAM の皆様、岩手県の皆様、大変お世話になりました。どうもありがとうございました。

Counseling Training Program

Host Institution: Gunma Prefecture
Name: Lucilia Grando
Country: Federative Republic of Brazil
Training Institution: Brazilian School、
Public elementary school

This report talk about the Counseling activities developed during the LOGTPJ-2010, from July to December, in Oizumi and Ota towns of Gunma Prefecture.

The Counseling Training had the purpose of provide psychological assistance for Brazilian students in Brazilian and Japanese Schools.

1 Reasons for applying

The application for this program was made because coming to Japan and learn about Japanese life and culture in locus would be the best way to understand the specific problems and difficulties faced by Brazilian children that live in Japan. Identifying whether these problems are arising from the child, family structure or cultural differences would become easier to help them.

2 Summary of Training

The first step was to do a research to detect the main problems of students in Brazilian Schools. Four Brazilian Schools participated in this research: Gente Miúda, Paralelo, Pitágoras and Nipakku, which together had 549 students. It was observed the following results in the frame bellow:

Psycho Pedagogical Problems	**Total**	**Emotional Problems**	**Total**
Do not complete the tasks	107(19%)	Lack of Interest	50(0.09%)
Lack of Attention	101(18%)	Agressiviness	24(0.04%)
Difficulty of Memorization	94(17%)	Tics	22(0.04%)
Difficulty of Writing and Reading	85(15%)	Nail Biting	17(0.03%)
Difficulty of Concentration	07(0.01%)	Crying	17(0.03%)
Difficulty of Talk	02(0.001%)	Others	16(0.02%)
		Isolation	10(0.01%)
		Atypical Sexual Behavior	07(0.01%)
		Phobia	01(0.001%)

After these survey, it was started to do Psycho diagnose of cases more urgent in those four Brazilian Schools and Asahi Elementary School, a Japanese School. The attendances were realized weekly in these 05 schools, one day of week per each school. It was made 367 attendances: 42 students were assisted (20 children from 05 to 11 years

old and 22 adolescents from 12 to 17 years old); 25 parents received orientation about their children and 82 adolescents received Professional Orientation.

Major psychological problems diagnosed were:

Cases	Number	Cases	Number
Attention deficit	07	Japanese language Difficulty/stress	02
Traumas/fears/insecurity	07	Adaptation difficulty	02
Hyperactivity	05	Atypical sexual behavior	01
Family problems	05	Autism characteristic	01
Depress characteristics	05	Multiple deficiency	01
Anxiety disorder/stress	03	Depression and self injury	01
Historical domestic violence	02	Problems of adolescence	01

From these attended cases, it was made 11 referrals: 08 to neurologist, 02 psychiatric and 01 to pediatrician.

Thinking to help the students to improve the capacity of concentration, memorization and reasoning, it was developed a research with 64 students of Paralelo School to verify if the Mentalphysical Exercise and Super Brain Yoga could help them improve their capacities (picture 01). These exercises combine physical activities with breathing exercises, which in turn causes higher oxygen in the body and head stimulating the brain activities.

Picture 01
Students of Paralelo School making Mentalphysical Exercises and Super Brain Yoga, on September 2010.

These exercises were applied every day at school before classes. A battery of tests was applied to the students before they begin the exercises in July, and in December they were retested again. Five tests were applied to investigate the following capacities: perception, concentrated attention, auditory memory, visual memory and logical reasoning. It was possible to see the result as follows: all students improved their scores at least in 01 test; 29% of students improved their scores in all tests, 30% improved in 03 tests, 30% improved in 02 tests and 11% improved in 01 test. In the test of Concentrated Attention, 37% of students improved their scores from 21% to 40%. So, it was certified that Mentalphysical Exercises and Super Brain Yoga can help students improve their capacities and skills. However, more research with a greater scientific rigor and control of variables is necessary.

Lectures and role-play about Professional Orientation and Career Choice were developed for the students of Asahi Junior High School and for the students of Gente Miúda School.(picture 02) A questionnaire was applied to see their expectation and

concerns about future, career, living in Japan and living in Brazil. The data are still being processed and analyzed.

Picture 02
Role-play about Choices in Life with students of Asahi Junior School, on 11/15/2010.

Orientations were also developed for parents with the aim of help them to understand the emotional and psychological aspects of development of children and adolescents (Picture 03). These orientations were realized at Asahi Elementary School and Minami Junior High School.

Picture 03
Orientations about Emotional Development of Child for the parents of Brazilian students of Asahi Elementary School, on 11/26/2010.

The trainee also has received information about the practical and public policies of Gunma Prefecture to prevent domestic violence, abuse and violence against children, visiting the Health and Social Welfare Center of Tobu, in Ota town.

Cultural activities have also been provided as a way of understand better the Japanese life, tradition and customs, visiting places such as: Shorinzan Darumaji, Daimon-ya, Tambara Lavander Park, Temples and Shrines, Parks, Myogi Mount, Sakura Mount, trekking and participation in Festivals.

The training is being very beneficial, because the interchange of experience and knowledge of both parts is promoting a better understanding of the needs of Brazilian children that live in Japan and their needs when they return to Brazil.

3 Plans upon returning home

To end this report, it is important to say that all activities, all the emotions felt and lived, all misunderstand of language, every moment and situation was worth in Japan. These experiences form the basis for the establishment of practices in local government that support children adapt to return to Brazil, through visits, role-play, orientations, or a simple conversation.

カウンセリング研修プログラム

受入自治体　　群馬県
氏名　　ルシリア　グランド （Lucilia　Grando）
出身国　　ブラジル
研修先　　ブラジル人学校 公立小学校

2010 年自治体職員協力交流事業（LGOTPJ）の研修として、7 月から 12 月まで群馬県の大泉町と太田市でのカウンセリング活動に参加しました。これについて報告いたします。

カウンセリング研修の目的は、ブラジル人学校と日本の小学校でブラジル人の生徒に心理面のサポートをすることでした。

1　本事業に応募した動機

このプログラムに応募したのは、日本を訪れ、日本人の生活と文化を現地で学ぶことが、日本で暮らすブラジル人の子供たちが直面している特有の問題と困難を理解する最善の方法だろうと考えたためです。それらの問題が、その子供自身から生じているのか、家族構成から生じているのか、あるいは、文化の違いから生じているのかを識別することが、彼らを助けるのに役立つと考えます。

2　研修の概要

最初の段階は、ブラジル人学校における主な問題を見つけるための調査だった。この調査に参加したブラジル人学校は次の４校：Gente Miúda、Paralelo、Pitágoras、Nippaku。これら４校全体の生徒数は549名。下の表に示す結果が観察された。

心理教育学的問題	合計	感情面の問題	合計
課題を終了できない	107(19%)	興味不足	50(0.09%)
注意力に欠ける	101(18%)	攻撃性	24(0.04%)
記憶するのが困難	94(17%)	チック	22(0.04%)
読み・書きが困難	85(15%)	爪をかむ	17(0.03%)
集中するのが困難	07(0.01%)	泣き叫ぶ	17(0.03%)
話すのが困難	02(0.001%)	その他	16(0.02%)
		孤立	10(0.01%)
		通常と異なる性的行動	07(0.01%)
		恐怖症	01(0.001%)

この調査の後、これら４つのブラジル人学校と日本人の学校１校（旭小学校）において、より急を要するケースの心理学的診断にとりかかった。５校すべてにおいて１週間に１回、生徒に付き添って観察した（合計 367 回の付き添い）。42 名の生徒（5 才から 12

才の子供 20 名と、12 才から 17 才の若者 22 名）に付き添い、25 名の親が子供に関するオリエンテーションを受け、82 名の若者が職業に関するオリエンテーションを受けた。

診断された主な心理的問題

症例	人数	症例	人数
注意欠陥	7	日本語能力不足、ストレス	2
トラウマ、恐怖感、不安感	7	適応困難	2
多動	5	通常と異なる性的行動	1
家庭問題	5	自閉的傾向	1
うつ的特徴	5	複合的な欠陥	1
不安障害、ストレス	3	うつ、自傷	1
過去の家庭内暴力	2	思春期の問題	1

付き添い観察を行った上記のケースのうち合計 11 名については、8 名を神経科医、2 名を精神科医、1 名を小児科医にまわした。

生徒が集中力、記憶力、論理的思考力を高めるのを助けるために、Paralelo School の 64 名の生徒に関する調査を行い、メンタルフィジカル・エクササイズ（心身を鍛える体操）とスーパーブレインヨガが彼らの能力の向上に役立つかどうかを検証した（写真１）。身体的な運動と呼吸運動を組み合わせたこの体操は、体内と脳内の酸素量を増やし、脳の活動を刺激する。

写真１
メンタルフィジカル・エクササイズとスーパーブレインヨガを行う Paralelo School 生徒（2010 年 9

この体操は授業前に毎日取り入れられた。体操を始める前の７月に生徒に一連の試験を実施し、12 月に再試験を行った。認識力、集中力、聴覚的記憶力、視覚的記憶力、理論的推論能力を調べるために５つの試験を実施した。

結果は次のとおりであった。

- 全生徒：少なくとも１つの試験の点数が上がった。
- すべての試験の点数が上がった生徒：29%
- 3 つの試験の点数が上がった生徒：30%
- 2 つの試験の点数が上がった生徒：30%
- 1 つの試験の点数が上がった生徒：11%

集中力の試験では、37% の生徒が点数を 21%から 40%上げた。そのため、メンタルフィジカルエクササイズとスーパーブレインヨガが生徒の能力とスキルを上げるのに役立つことが証明された。しかしながら、科学的により厳密で、変動をコントロールしたさらなる調査が必要である。

旭中学校の生徒と Gente Miúda School の生徒のために、職業に関するオリエンテーションと職業選択についてのレクチャーとロールプレイを実施した（写真 2）。将来のこと、職業、日本での生活、ブラジルでの生活についての期待と意見を知るためのアンケート調査を実施した。現在、その回答データの処理と分析が行われている。

写真 2
旭中学の生徒と「人生における選択」についてのロールプレイ（2010 年 11 月 15 日）

また、親が子供や若者の感情面、心理面の発達を理解するのを助けるために父母向けのオリエンテーションを実施した（写真 3）。 このオリエンテーションは旭小学校と南中学校で実施された。

写真 3
旭小学校のブラジル人の生徒の父母を対象とした「子供の感情面の発達についてのオリエンテーション」（2010 年 11 月 26 日）

研修生はまた、太田市の Health and Social Welfare Center of Tobu（東部保健福祉事務所）を訪れ、子供に対する家庭内暴力、虐待その他の暴力を防ぐために実施している群馬県の公共政策に関する情報を得た。

日本の生活、伝統、文化についての理解を深める方法として文化活動も準備されていて、少林山達磨寺、大門屋、たんばらラベンダーパーク、寺院、人社、公園、妙義山、桜山などを訪れたり、トレッキングやお祭りに参加したりした。

この研修はとても有意義であった。それは、日本とブラジルの両方の体験と知識の交換が、日本に住むブラジル人の子供たちのニーズと、彼らがブラジルに戻った際のニーズについてより深く理解するのに役立ったためである。

3　帰国後の展望

レポートの最後にあたり、日本でのすべての活動、味わったすべての感情、言語の誤解すべて、あらゆる瞬間と状況が有益であったことをぜひ述べておきたい。 こうした体験は、参観、ロールプレイ、オリエンテーション、何気ない会話などを通して、子供たちがブラジルに帰国し、適応するのを助ける地方自治体の取り組みを定着させるベースとなる。

Educational Administration Systems in Saitama-ken

Host Institution	: Saitama-ken
Name	: Julian Alfonso Chavez Trueba
Country	: United Mexican States
Training Institution	: Primary, Secondary & High School in Saitama-ken

1 Reasons for applying

I have worked for the Secretary of Education of the State of Mexico Government, my family such as great-grandmother, grandmother and mother had served as teacher and/or positions in administration over multiple generations, therefore I have had a vested interested in educational issues since my childhood.

The schools in Mexico State at present, it seems to me a confused situation that the teachers are losing their enthusiasm on teaching and moral degeneration caused mismatching between the programs provided the government and demand of the schools. There are many limitations such as Mexican culture or geographic, but the most significant problem is institutional difficulty caused by the way of government procedures and inefficient allocation for the personal and capital resources.

I wanted to study and realize that institutional administration aspects, how to absorb a needs of the schools to educational policies, how to keep their motivation for the further objects...etc, throughout my occasion to participate disciplined educational systems of Japan. In Mexico, we have constantly imported successful projects in other countries to my country, but I hoped that I don't want to just make a copy, I want to know how to create a solution for each different problems.

Of course, I was much anxious about my life in Japan without my family and my friends, but I decided to participate in this program because I had high expectations of life in Saitama with my new family and many encounters during the program.

2 Summary of Training

My main training had done at primary, secondary and high school in Saitama-ken. Also I had a chance to visit private universities together with my host high school students. Since I was able to participate in the every stage of the education category, it helped me comprehensive understandings of the education systems. In Mexico, we have examination for promotion at each grade even primary school, in Japan, every student is promoted automatically to upper grade without examination, but the students have to get over hurdles of entrance examination if the one wants to go on to the high school or the university.

(1) Primary School

The support of the program in the school was the vice principal. The principal is the face of

the school, he has a great point to get the balance between the parents, teachers, students and communities. The vice principal is the person who is in charge of solving all kinds of problem occurred and she is involved in the life of many concerned.

There are a lot of communications between parents and teachers. The society is very careful for students to maintain good conditions for life and study. The school always intends to close to the parents, they are invited often to participate in ceremonies, speeches and festivals, and it makes strong relationship between them.

The teachers are quite focus on teaching. All the teachers have the priority to consider for the best way of teaching. I was surprised at many songs and images around class when I joined English class.

(2) Secondary School
Everything has done by teamwork, for example, cleaning hour, lunch preparation, sports festival. At any time the students conduct themselves with well understood and organized according to the teacher's simple instructions, so it goes progressive effectively. We had better import this kind of Japanese customs to my country.

The principal works together with the vice principal. The contribution of the principal is not only coordinating many parties and activities but organize many ideas for make a decision.

I heard many times following words "arigatou", "ohayo gozaimasu", "sumimasen" and "hai" around school. It is quite useful words in Mexico too, but there are some differences between us. The first one means express one's thankful to the people who helped you. The second one means we are polite open my door no matters who they are. The third one means express our humility and admitting our fault, but sometimes Japanese people use this word for their appreciation. The last one, that word has quite positive meaning that we are always ready for further successful life with many activities around us.

(3) High School
Japanese public school hold discretion in part to create own curriculums from the government compared to Mexico. My host school focuses on foreign language and to provide programs for basement of worldwide vision. They are supported by exchange program. All schools have their distinctive characteristics.

The programs of the school are success to create strong relationship like a bundle. I think the students are satisfied with their life in school because they are enjoying as they want to throughout meeting new friends, many after school activities and so on.

I realized the importance of teamwork, the students move forward to the goal by sharing same mind with discipline. For example, when they prepared for the school festival, they

worked well together for the object as if they are an orchestra. In Mexico, every student wishes to be a conductor which causes the project delay.

3 Plans upon Returning Home

I had kept a personal journal about small ideas, what I learned or my feelings every day during my training. Now I have reviewed my records and I am preparing official report of my precious experiences in Saitama-ken. My report will be published as an official report of the government and distributed to the libraries after submitting to the secretary of education of the state of Mexico. Also I will have a valuable occasion to give a presentation to the minister of education of the state.

My job and position is as same as before, however I am trying to improve level of my job so as to contribute for evolution of the education in the state even a little.

I am as if I was a good-will ambassador, I am telling my experiences in Japan to the groups and push them to visit impressive country.

In closing, I would like to express my deep appreciation to father and mother in Japan, and all the people took care of me.

埼玉県で教育行政を学んで

受入自治体　埼玉県
氏　　名　フリアン・アルフォンソ・チャベス・トルエバ
出　身　国　メキシコ合衆国
研　修　先　埼玉県内の小学校、中学校、高等学校

１　本事業に応募した動機

私はメキシコ州政府教育省で働いています。また、私の家族も、何世代にも渡って、学校や教育行政の現場で仕事をしてきたこともあり、子供の頃から教育問題に強い関心をもっていました。

現在のメキシコ州の教育は、州政府が提供するプログラムと現場のニーズが合致しておらず、教師は意欲を失い、モラルの低下等、教育現場は混乱しているように思えます。原因は文化的な制約や、地理的な制約などもありますが、州政府の仕事の進め方や人材・資源が効率的に配置されないことなど制度的な制約が一番大きな妨げになっていると思います。

私は、規律のとれた日本の教育現場を経験することによって、制度的な面や、現場のニーズを施策にどのように取り込んでいくのか、教師や生徒がどのように動機づけして教育的向上を果たしているのか実際に確かめたいと思い応募しました。私たちの国では、他の国の教育の成功事例を導入することがありますが、単純に真似るだけではなく、それぞれの要因からどのような解決方法が生み出されたのかを学びたいと思いました。

もちろん、他の国で家族や友人がいない生活を送ることを心細く感じましたが、それ以上にホストファミリーや研修先など埼玉県でのいろいろな人との新しい出会いへの期待が上回り、最終的に応募することに決めました。

２　研修の概要

研修は主に埼玉県内の小学校、中学校、高等学校で行われました。研修先の高校生と一緒に大学見学に行く機会もありました。各段階の教育現場を経験することができ、日本の教育システムを包括的に学ぶことができたと思います。メキシコでは小学校の段階から進級するための試験がありますが、日本では進級試験はなく、高校や大学に入学する時に試験があります。

（１）小学校

小学校の研修では教頭先生にお世話になりました。校長先生は学校の顔であり、保護者や生徒、教師との関係を円滑にする役割を担っています。教頭先生は実務上のあらゆる問題を担当しているので、多くの人々の生活に関与することにもなります。

保護者と教師の間には多くの交流の場が設けられています。生徒達の生活・

学習環境を保つよう細心の注意が払われています。学校は保護者に近い存在であり続けるため、式典や講演、学校祭などのイベントに保護者を頻繁に招待しています。これらは保護者と教師の結びつきを強めるものだと思います。

教師は教えることに情熱を注いでいます。全ての教師はより効果的な指導方法について絶えず検討を重ねています。英語の授業に参加した時は歌や写真がふんだんに使用されていることに驚きました。

（小学校での授業参加）

（２）中学校

清掃時間や給食、体育祭など、全てのことはチームワークによって進められます。いつ、いかなる時でも生徒達自身によって行動は組織化され、教師は簡単な方向性を示すだけで、生徒は何をすべきか理解するので、効率的に物事は進みます。メキシコの生活習慣にもこのような行動様式を取り入れた方が良さそうです。

校長先生は教頭先生と協働して仕事を進めます。校長先生は調整だけではなく、様々なアイデアをひとつにまとめる重要な役割を果たすことになります。

学校では「ありがとう」「おはようございます」「すみません」「はい」がよく使われていました。メキシコでも有益な４つの言葉ですが、表す意味は少し違います。１つ目の言葉は、何かしてもらったことに対して謝意を表すものです。２つ目の言葉は、誰に対してでも発することができ、相手を尊重し、自分が心を開いていることを示すあいさつです。３つ目の言葉は謙虚さを示し、過ちを認める場合などに使いますが、日本では感謝の気持ちを表すこともあります。４つ目の言葉は、様々な主体と一緒に、成功に向けてより良く生きていく用意が常にできていることという非常に積極的な意味を持っていることを知りました。

（３）高校

日本の公立学校はメキシコに比べ、カリキュラムなどがある程度自由に決めることができるようです。私が研修を受けた高校は、外国語学習に力を入れており、生徒達は国際的な視野を身につける上での基礎を学ぶことができます。また交換留学制度も充実しています。各学校によって特色が異なるのです。

学校のプログラムはより強固な人間関係を形成することに機能しています。この学校の生徒達は、望みどおりの学校生活を送り、新しい人と交流し、多くの課外活動を行うことができ恵まれていると感じました。

（高校での授業参加）

ここでもチームワークの力を知りました。生徒達は同じ考えをもって、自律的に目標に向かって進むのです。例えば学校祭の準備では、まるでオーケストラのように全員で協力し手際よく作業を進めます。メキシコでは、全員が指揮

者になりたがり、なかなか進みません。

３　帰国後の展望

私は研修の間、毎日ちょっとしたアイデアや学んだ事、感じた事などを日記に書いていました。日記を見ながら論点を整理し、埼玉県での経験を報告書にまとめています。この報告書はメキシコ州政府教育省に提出された後、州政府から出版され、図書館に並べられることになります。もちろん報告書が完成した時には、教育省の大臣に直接説明する機会があります。

私の仕事は、研修前と変わりはありませんが、仕事のレベルを上げ、メキシコ州の教育を少しずつ、より良いものにしていきたいと思っています。

また、友好大使になったつもりで、友人たちに私の日本での経験を伝え、ことあるごとにこの素晴らしい日本を訪れるよう勧めています。

ホストファミリーのお父さん、お母さん、お世話になった皆さん、本当にありがとうございました。

Preserving the Beauty of Living in Our City

Host Institution	Saitama City
Name	Mario Chocoteco Hernández
Country	Estados Unidos Mexicanos
Training Institution	International Division, Saitama City

In Toluca City, I work as a staff member of the Mayor´s office. My work consists of researching information, analyzing statistics, making speeches and designing public policies for the mayor. I have a master's in economics and a specialization in political management. My desired field of study is related to the analysis of public policies.

1 REASONS FOR APPLYING

Toluca and Saitama City are Sister Cities since 1979. Toluca in the past 30 years has experienced remarkable growth, due to its strategic position and the economic facilities that the city gives to investors, transforming the city into a very important industrial and commercial center in Mexico. Unfortunately, this regional growth has not been equilibrated, and as time goes by, the city requires more services and more planning for the future. Saitama City has experienced this process before Toluca, and the public policies that the city is developing are useful to meet the citizens' demands. My interest in coming to Saitama City is because, like Saitama, we need to be creative and to take the chance to solve problems that in the future can be irreparable, such as Environmental and Urban Planning problems.

Hence, the purpose of my training is to study Saitama City's policies and to generate ideas that might be helpful for all the citizens of Toluca.

2 SUMMARY OF TRAINING

My training until now has been the best experience in my life. I'm glad and thankful to the LGOTP members and the members of the International Division in Saitama City.

Training at JIAM

At JIAM, I had good friends and good moments. Everyday my Japanese lessons were amazing, and after school with friends and loved ones made fantastic days that I will always remember. Everyday lessons started at 9 am and lunch break was at 12 pm, after which we returned to class from one o´clock until 5 pm. In the afternoon, we could go outside and enjoy the magnificent places of Lake Biwa and sometimes, Kyoto. Over there I had my first impressions of Japanese culture and to be honest, over there I realized that I would love Japan, even if my culture would be so different.

Training at Saitama City

Saitama City is the result of the merger of three cities of this area. This merger was necessary because all these cities were working as one in fact, and because of the requirements of infrastructure and services that the population of the area needed. The merger of the three cities took place in 2001 and the city was designated by government ordinance in 2003. Now Saitama City has transformed as an important bed town for the Tokyo area and this city is an attractive place to live because with this merging process they could create infrastructure and improve government efficiency.

Posong with "Nu",city PR character

During my training, I could observe the amazing infrastructure of Saitama Shintoshin (the new urban center), the measures taken to regulate urban development, the application and operation of the recycling policy in Japan, the "Greenery Project", agriculture promotion, the policies developed for disabled people and the Animal Management and Welfare Center. I went to one primary and one junior high school to observe how the education system works and I learned about the work of the Child Rearing Division, as well as that of Sakura and Urawa Wards. I visited famous places of Saitama like The Railway Museum, the Bonsai Village, shrines and temples that equilibrate the tendencies of development and preserve Japanese traditions at the same time.

IMPRESSIVE THEMES

1. Visit Recycle Centers of Saitama City

I want to start this by saying that in Japan there is a law under which everybody is forced to recycle, and based on this, in Saitama City people have to separate their trash in order to facilitate the process of recycling. To achieve this, Saitama City has developed a manual on how to dispose of household waste. In this manual, you can learn how to separate your trash, the days that you can dispose of it and the schedule for your house area. Saitama City has 5 facilities to dispose of waste in the city. On this ocassion, I went to the Clean Center Osaki and the Eastern Area Recycling Center. At the first one, they transform waste into energy by burning the waste and using Steam Turbine Generators. After the trash is burned, the ashes are taken to a landfill disposal site where these ashes are gathered and buried. This center was made in 1976; at the beginning it burned 150 tons per day and now it burns 450 tons per day. As for the Eastern Area Recycling Center, Saitama city sends all pet bottles and wooden waste to this center to be recycled. This center separates pet bottles, aluminium bottles and glass bottles; they separate and clean these bottles and after that they send them to another center to be crushed and recycled.

2.- **Urban Planning and Case Study** In Japan, in the year 1969 the Urban Planning law was enacted. Based on this law, Saitama City developed an urban planning master plan that contains aspects like: Zoning area - it says how the city is divided and what are the areas that require more attention; Transportation - in the law they specify which kind of transport is allowed; Environmental impact - every area has specifications about the environment in the zone; and the Urban Planning Information System - Saitama City has information for all the city zones. As such, you can see for every area the main problems, the needs and the projects that are going to be developed.

Visit to Urawa Station Project with the Urban Planing Bureau

Characteristics: The urban development plan in Saitama City is designed for the next 20 years and is reevaluated every 5 years. The city spaces are defined according to land use with each ward having defined landscapes, under the advisership of the municipality. In some areas of Saitama City, the usage of bright colors for houses is prohibited. When people apply for a construction license, the municipality gives them a pamphlet with specifications of the colors, materials, etc. The specifications are so detailed that they also include the house height and recommendations if you live near a specific zone (school, metro, etc).They also include specifications about the environment in the area where you are living.

The case of park design in Saitama City When a new park is going to be constructed, the citizens and city staff members participate in the design and the construction of the park. The parks need to be done with plants of the region, they have to be artistic, they must allow sociability and they have to be sustainable.

3 PLANS UPON RETURNING HOME

As a conclusion of my training, and after all the programs that I observed in Saitama City and comparing with my city´s needs, I realize that in my city we need to do the following: Create an Urban Development Plan for the next 20 years; Create an urgent repair and cleaning of roads program; Create a Center of Community Services and upgrade the policy of recycling in my city.

Experiencing the Magic Of Japan

きれいな町並みを保護

受入自治体	さいたま市
名前	マリオ・チョコテコ・エルナンデス
国	メキシコ合衆国
受入施設	さいたま市国際課

私は、トルーカ市の市長公室の職員です。仕事の内容は情報収集・統計分析・スピーチ執筆・政策立案です。経済学の修士号を取得し、政治管理を専攻しました。希望の研修分野は公共政策です。

１　応募動機

1979 年にトルーカ市とさいたま市は姉妹関係を結びました。ここ 30 年間に、戦略的な立地条件や投資家への優遇措置を講じたため、トルーカ市は著しく成長し、メキシコの主要な経済都市へと発展してきました。しかし、地域の発展にはばらつきがみられ、今後、サービス向上や更なる都市計画が求められています。トルーカ市は、さいたま市が辿ってきた軌道に乗っているように発展を成し遂げようとしているので、さいたま市の政策はトルーカ市の参考になると思われます。トルーカ市には、以前さいたま市が抱えた同じような問題に直面しています。放っておくと解決不可能な問題（環境や都市整備等）の未然防止ができるため、さいたま市で研修することをきっかけに、クリエーティブで大胆な解決策を考えていきたいと思います。

まとめますと、トルーカ市の市民に役立つアイデアに出会うために、さいたま市の政策を勉強することが、今回の研修目的となります。

２　研修概要

研修は一生で一番面白かった経験となりました。LGOTP の関係者やさいたま市国際課に感謝したいと思います。

JIAM での研修

JIAM では、たくさんの友達と思い出を作ることができました。日本語講座が面白くて、放課後も友達や好きな人と交流して、忘れられない充実した毎日でした。授業は 9 時から始まり、12 時からの昼休みの後、5 時までクラスが続きました。放課後、琵琶湖の自然を楽しんだり、時によって京都へ行ったりしました。初めて日本文化と出会い、母国の文化と大きく違っているにもかかわらず、日本文化が大好きになりました。

さいたま市における研修

さいたま市は周辺の３つの都市の合併でできた都市です。合併の理由としては、３つの都市が事実上、同じ都市として機能していて、提供されている住民サービスが同じだからです。この合併は 2001 年に行われて、2003 年に政令指定都市になりました。東京の主要なベッドタウンのひとつで、合併によって可能となったインフラ整備や行政サービスの効率化のおかげで、魅力的な生活地となりました。

市のキャラクター「ヌゥ」と一緒

研修中に、新都心みたいな素晴らしいインフラ、都市計画、日本のリサイクル方法とその実現、緑化政策、農業振興、不自由者対策、動物保護センター等について勉強しました。小学校と中学校を一つずつ訪問し、日本の教育システムのことも知ることができました。桜区と浦和区における子育て支援課の仕事も見学できました。鉄道博物館、盆栽村、社寺等、様々な観光スポットも行って、現代日本の流れを感じながらも、伝統文化も充分味わえました。

主なテーマ

1.　さいたま市リサイクルセンター訪問

さいたま市において、ゴミを分別することを定めた条例があり、リサイクルが積極的に促進されています。分別を促すために、さいたま市は家庭ごみ分別冊子を作成しました。マニュアルにおいては、分別方法・各地区のゴミ収集の日等が掲載されています。さいたま市内にゴミ処理施設は５施設あり、その内、クリーンセンター大崎と東部リサイクルセンターを見学することができました。クリーンセンター大崎においては、ゴミを焼却し、蒸気タービン発電機で発電しています。焼却した後、灰が埋蔵施設に運ばれ、埋め立てられています。このセンターは１９７６年に設立され、その当時は１日１５０トンのごみを処理できたが、現在は１日４５０トン処理しています。東部リサイクルセンターでは、さいたま市内に発生したペットボトル類や廃木材等を集め、リサイクルします。ペットボトル・アルミ缶・瓶を分別してから、それぞれを清掃し、もう一つの施設で破砕され、リサイクルされます。

2. 都市計画とその事例

1969 年に都市計画法が制定されました。この法に基づいて、さいたま市は都市計画プランを策定し、様々な規制・条例を練り上げました。例えば、都市をどう分けて、どこを重点的に開発させるのかを決める都市区画規制や、交通手段を決める交通規制や、環境基準を決める環境影響規制や、区画に関する情報が掲載されている「さいたま市都市計画情報検索システム」があります。従って、各区画の主な課題・ニーズ・予定されている規格を簡単に把握することができます。

都市計画課と一緒に浦和駅事業を訪問

特徴： さいたま市の都市計画プランは２０年にわたりますが、５年おきに再評価されます。都市空間は土地利用によって定義され、市役所のリーダーシップのもと、各区画は特

定の景観が保障されています。例えば、さいたま市のある地区において、ビビッドな色の建材を使った建物が禁止されています。建設許可証を申請するときに、利用できる色や建材等についての市からの説明書がもらえます。特定の区画（学校や中心部等）の周辺の区画であれば、建物の高さやその他のガイドラインまで細かく決まっています。周辺の環境に関する規制もあります。

さいたま市の公園デザインというケーススタディー： 新しい公園を造園する時、市民も市職員もデザイン課程や建設に参加します。地元の植物を使って、社会的交流を促進するような美的なデザインが重視されています。

３　帰国後の企画

さいたま市の様々な事業を見学し、私の市が必要なことは下記の通りだと気付きました。

１）２０か年の都市計画プランを策定すること
２）道路の補修工事や清掃を緊急に行うこと
３）生活支援センターの設置
４）リサイクルに関する指針を向上させること

日本の魅力を体験

若さと活気に溢れる千葉市で国際経済交流を学んで

受入自治体：千葉県千葉市
氏　　名：楊　麗
出　身　国：中華人民共和国
研　修　先：千葉市役所

1.本事業に応募した動機

中国天津市から参りました楊麗と申します。私は天津市政府の外資系企業誘致機構、天津市外商投資サービスセンターの日本担当として、日本企業が天津市へ進出する際の天津市投資環境の説明、天津市内の進出の最適地の推薦及び進出の円滑化を支援するなどの業務をしています。

千葉市と天津市は 1986 年 5 月に友好都市を締結し、来年 25 周年記念を迎えます。私はこの事業を通して、千葉市と天津市の経済交流を促進することに貢献したいと思いました。

２.研修の概要

約 6 ヶ月間の研修は、全体研修と専門研修の二つに分かれています。

(1) 全体研修

今回、約 7 ヵ国からの 31 名の自治体協力研修員が東京で一堂に会し、研修が始まりました。

研修の中で、国会議事堂、東京都庁など日本の政治の中枢の機関を見学し、日本の政治を身近に感じることができました。

何回も日本に来たことがあるにもかかわらず、きれいな環境が相変わらず心に触れました。また、クレアの皆様から細かいところまでお心配りいただき、ありがたいと思いました。

短い東京研修の後、JIAM に移動して、約 1 ヶ月間の日本語研修に入りました。

毎日、充実した授業コースを通じて、自然な日本語を学ぶことだけではなく、即興スピーチ、他の国のクラスメートたちと一緒にチームワークを通して課題を検討するなど、レベルの高い授業でした。

クレアと JIAM のスタッフたちに私たちはいろいろお世話になりまして、とても感謝しています。彼らは週末の余暇を利用し、私たちを彦根城、京都の金閣寺、清水寺、二条城などに連れて行ってくれました。また、研修員たちが自分で計画して、古都奈良を見に行きました。日中友好を象徴する、歴史が長い唐招提寺をついに見ることができて、とても楽しかったです。

この約 1 ヵ月間の研修は日本語レベルを高めることだけではなく、茶道など日本伝統文化も十分楽しむことができました。研修員たちが交流し合い、助け合い、異文化の交流と理解を深めつつあります。また、日本の職員の皆様のとてもまじめな仕事態度が印象でした。

(2) 専門研修

JIAM で研修員たちの最終成果発表会と日本語修了の閉講式が終わってから、

千葉市役所の私の研修担当者が JIAM に来て、私を迎えてくれました。ここから私の専門研修が始まりました。

千葉市に到着したばかり日の夜に、日本で最年少の市長である熊谷市長をはじめとする皆様が私の歓迎会を行ってくださり、一生の忘れられない思い出になりました。それから、私一人での新しいチャレンジが始まりました。

それでは、専門研修についていくつかの面から感想を述べさせていただきたいと思います。

ア、身近な市政と向上力に溢れるまち

千葉市は首都圏に位置し、海と緑に囲まれ、96 万人を有し、首都圏の一翼を担う政令指定都市です。千葉市に到着した後、何より驚いたのは千葉市の代表者、32 歳の熊谷市長です。当選の時、31 歳では若すぎる、という意見もあったのではないかと思いますが、アメリカのオバマ大統領が 47 歳、またブレア英国首相が誕生したのは彼が 44 歳の時でしたので、グローバルスタンダードでは、驚くには値しません。いつの時代も「ポストが人をつくる」のです。熊谷市長には、そういう天命があるのだと思います。

熊谷市長（右）と経済交流の意見交換をしました。

その後、千葉市のホームページと市長ブログなど各種の資料を読んで、千葉市の全般的な事情をより良く理解することができました。千葉市のホームページでは、市長の日々の行動予定と記録や幹部メッセージなどが公開されており、トップの考えが分かり、また、市民の皆さんと市長が昼食をともにしながら、様々なご意見やご提案を気軽に話し合う「ランチ・ミーティング」という活動も行われています。市民の目線と民間感覚を取り入れた市政刷新に取り組み、市政が身近に感じられます。

現在、都市の特色を活かし、企業、学校、行政の連携を強化しつつ、経済や科学に関する交流やイベントが多く行われていて、私もこのうちのいくつかに参加しました。また、千葉市が策定を進めている科学都市戦略も楽しみです。

その他、千葉市は若者、子どもに力を入れていると感じます。例えば、「子ども議会」「西千葉子ども起業塾」というような千葉市独自の施策展開を進めていることが挙げられます。「子ども議会」は子どもの主体性や自立性を高めて、「西千葉子ども起業塾」は次世代を担う子ども達への起業家精神の喚起ができます。これらの事業の特徴は街の課題を解決するというミッションに沿って、事業計画を立てることで、子どもたちが、地域社会の活性化に貢献しているという、達成感、やりがいを感じることができるということです。

千葉市では今焼却ごみ 3 分の 1 削減を進めています。千葉市の行財政の事情を理解するにつれて、このようなごみ減量は環境面だけでなく、コスト削減という観点からも極めて重要な施策だと理解しました。この点から見れば、中国の関係部門が学ぶ余地があると思います。

イ、チームワークがよく取れた職場

企業訪問の様子。
（写真は理研ビタミン）

私の専門研修の経済農政局経済企画課は業務によって、産業企画班、企業誘致推進班と観光推進室という三つの部門に分けられます。私は産業企画班に所属し、千葉市と天津市の経済交流について、様々な実務と提案をしました。具体的には、千葉市の経済関連団体と企業を10 社あまり訪問したこと、外国人向けの千葉市観光ガイドマップの作成のために、千葉市に住んでいる中国人へのアンケートを翻訳、配布したこと、天津市の最新の経済動向と写真集を千葉市ホームページに載せたことなどです。また、経済分野のより良い交流を促進するために、若い世代の幅広い交流を強化することはとても重要だと思います。そこで、大学間、起業家間の交流提案にビジネス的な視点を加味しました。こうしたことが順調に進められたのは、経済企画課の皆様の協力の結果と言えます。こうしたことを通して、同僚の素晴らしさとチームワークの精神に対して、深い感銘を受けました。言葉にできないほど感謝しています。

3. 帰国後の展望

千葉大学を訪問。天津大学との連携を提案しました。

この最終レポートを作成している今、約6ヵ月間の研修生活を振り返って、時間の経つのは速いことを感じるとともに、いかに充実した研修生活を過ごしたかと痛感します。私は有意義な研修生活を過ごしまして、大きく成長させられました。

特に、千葉市で、多くの優れた仕事のやり方と多くの勉強をさせていただきました。また、私は経済交流、大学間の交流、産業と企業との連携交流、青年起業家グループの交流及び観光誘致などを提案しました。帰国後も、天津市と千葉市の経済交流、民間交流など幅広い分野での友好交流のかけ橋として尽力させていただきたいと思います。こちらでの日々は、貴重な思い出かつこれからの宝物として一生のかけがえのないものとなるでしょう。

最後になりますが、いつも親切にお心配りいただいた千葉市役所とクレアの皆様をはじめ、中国側の関係者、また、私の今回の研修を支持いただいた皆様に心から感謝を申し上げます。

忘れられない富山の生活

受入自治体　　富山県

氏　　名　　安 淑一

出 身 国　　中華人民共和国

研 修 先　　富山県衛生研究所

1　はじめに

私は、中国の遼寧省瀋陽市から来た安淑一と申します。遼寧省疾病予防コントロールセンターで働いています。

遼寧省と富山県は、1984 年 5 月に友好省県を締結しました。長い年月を経て、双方の交流は中日の友好交流の手本となりました。今年は遼寧省と富山県の友好省県締結 26 年目です。私は幸運にも協力交流研修員として富山に来て研修することができ、日本の先進的な細菌の検査・測定する技術を学びたいという期待を胸に来日しました。

２　研修の概要

（1）東京研修

東京での研修は 3 日間でした。日本の概況や生活習慣を学びました。日本の各種制度や政治体系などについて知りました。また、国会議事堂と東京都庁を見学しました。

（2）全国市町村国際文化研修所（JIAM）研修

JIAM で 1 ヶ月間、日本語の研修をしました。昼は授業を受けて、夜は図書館で宿題をしたり本を読んだりしました。1 ヶ月間日本語を学んで、とても進歩しました。また、日本の自治体の制度や高齢化社会の問題、日本の文化についても学びました。

それ以外に、(財)自治体国際化協会（CLAIR）のメンバーと一緒に京都へ行き、多くの建造物を見学しました。例えば清水寺、金閣寺、京都歴史博物館、二条城、彦根城、近江日野商人館などです。だんだん日本の歴史と文化を理解してきました。

（3）富山県での研修

富山県では約 5 ヶ月研修しました。富山県庁国際･日本海政策課と、(財)とやま国際センターに、生活や研修のお世話をしていただきました。

私の専門研修機関は、富山県衛生研究所でした。主に細菌部で腸内細菌の検査をしました。サルモネラ、大腸菌、コレラ菌、腸炎ビブリオ、レジオネラ菌、カンピロバクターについて検査を行いました。

①　細菌の検査・測定・分析

まず、各種の細菌を検査・測定する培地の作製法を学びました。例えば、LIM、 TSI、 TSA、 TSB 、TCBS 、XLD 、MLCB 培地などです。それから各種の細菌の分離、同定方法を学びました。このほか、これらの腸

内細菌を検出するための様々な水の検査について学びました。

これらの細菌を検査・測定する方法を学ぶ中で、私がずっと学びたかったMLSTとPFGEの技術を習得しました。この技術を習得できたことは、遼寧省での今後の仕事において大いに役立ちます。帰国後に、この技術を呼吸器系病原菌の検査・測定で応用したいと思っています。MLSTで菌株の配列を解析して、PFGEでゲノムパターンを分けることは、感染症発生時に被害が拡大しないよう制御できる可能性があります。遼寧省で効果的に感染症発生の状況を予測できる可能性もあります。

細菌部でのもう一つの大きな収穫は、LINE PCR技術の習得です。これは、細菌部の綿引先生が発明した新型の細菌を型別できる技術です。多くのプライマーを使用しますが1つのチューブで反応させることができ、すでに大腸菌では応用できています。LINE PCR技術の学習を通して、私はソフトウェアの使い方を学びました。例えばArtemis、Sequence assistance などです。これらのソフトウェアを利用することで、自分でプライマーを設計することができ、目的に応じた遺伝子を増やすことができます。

② 食中毒の調査

日本では、食中毒事件は中国と比べ多かったです。細菌部での研修期間は主に夏季でしたので、食中毒事件が多く、この研修期間中に、144検体の調査を経験しました。調査にあたっては、細菌部みんなで力を合わせて協力し検査・測定を行い、時間延長して、任務を完了していました。このほか、食中毒の検体の中から粘液胞子虫の検査をしました。私は幸運にもこの検査・測定する過程を見学でき、顕微鏡で粘液胞子虫を観察しました。これは、最近の食中毒検査において重要な発見であり、これまで原因不明であった食中毒のいくつかが解明されるかもしれません。

③ 国立感染症研究所での研修

国立感染症研究所では、村山庁舎と戸山庁舎の２ヶ所で研修しました。３日間だけでしたが、大変視野が広がりました。私は大規模なゲノムの塩基配列を解析する方法を学び、そして日本のFETPの運営方法を学び、感染症情報センターの感染症に対する情報収集能力に驚かされました。動物実験の技術は一流で、管理はとても厳格です。国立感染症研究所では、私が学びたかった本職の仕事である、呼吸器系の病原菌を検査・測定する技術を習いました。ここで得た収穫は、本当に私の一生の財産です。国立感染症研究所の各先生や、貴重な学習の機会を作っていただいた富山県衛生研究所の皆様に感謝します。

（4）日本の文化体験

専門研修以外に、富山県庁やとやま国際センターの職員、他の研修員や留学生と一緒に、立山や黒部峡谷に行きました。また、婦翔会のイベント、日本の茶道・華道体験、高岡の万葉朗唱会にも参加し

一番好きな有峰

ました。おわら風の盆では、「おわら」を踊り、花火大会を見ました。衛生研究所の細菌部のみなさんと一緒に世界遺産の五箇山へも行きました。

ホームステイは、細菌部の磯部先生の家に滞在しました。磯部先生と一緒に日本の生け花を学び、雨晴海岸、瑞竜寺、瑞泉寺に行きました。ごく短い2日間の生活でしたが、いろいろなことを学びました。磯部先生のご家族みなさんに感謝します。

お茶を飲みましょう

富山県の山、川、海、峡谷は、私にとって独特な魅力のあるものでした。まめで質素な富山県民の独特な伝統文化を体験しました。日本の風景というべき素朴で美しい景観を理解できました。

3　まとめ

時間は早く、6ヶ月の研修は瞬く間に過ぎ去りました。半年間の研修は、私に日本人の真の姿を理解させてくれました。勤勉で、少しの仕事もいい加減にせず、自分の欲望に打ち勝って仕事での責任を果たし、仕事を心から愛して、努力して自分の仕事をやり遂げる姿勢はすばらしいことです。このような精神に私は深く感動させられました。

半年の学習でしたが、実際の実験操作など、いろいろなことがとても大きな収穫となり、大いに利益を得ました。富山県国際・日本海政策課、(財)とやま国際センターに感謝いたします。衛生研究所の倉田所長はじめ各先生方には、いつもいろいろな知識・理論・技術を根気強く教えていただき、深く感謝しています。

私の富山県の家族（衛生研究所）

ここで学んだ知識、技術は一生の収穫であり、今後遼寧省で仕事を展開する上で活用できます。私は、全力を尽くして富山県と遼寧省の友好関係を持続的に発展させ、更に多くの遼寧省の人に富山県を知ってもらい、富山県に訪問してもらいたいです。

富山県は、私の家のような温かさを感じることができ、私の第2の故郷のように感じました。親切な富山県の人々を忘れることができません。中国のことわざに、「出会いと別れ、縁に任せ！」というものがあります。しかし私は遠くないうちに、皆さんとまためぐり会うことを信じています。

日本の環境保護を学んで

受入自治体	富山県
氏　　名	杜　航
出　身　国	中華人民共和国
研　修　先	高岡市役所

１　はじめに

私は杜航と申します。中国の遼寧省瀋陽市からまいりました。遼寧省瀋陽市環境保護局で働いています。日本の環境保護は、世界中でもトップレベルだとよく言われていますから、2010 年度自治体職員協力交流研修員の一員として日本の進んだ環境保護技術を勉強に日本に来ることができて、とても光栄だと思っています。このチャンスを活かして知識を身につけたいと思いました。

遼寧省と富山県は、1984 年から友好県省を結び、経済や文化、スポーツ、観光などいろいろな方面で深く交流しています。今年、富山県高岡市役所に環境保護の先進理念を学びに来ることができ、中日友好のために力を尽したいという気持ちで、情熱をもって来日しました。

２　研修概要

（１）東京研修

5 月 23 日に、情熱を持って東京に到着しました。日本の美しさと日本人の優しさを体験し、自信と勇気を持って、楽しく日々を過ごしたいと思っていました。(財) 自治体国際化協会(CLAIR)の職員は私たちのお世話をしてくれ、三日間でも東京研修は深く印象付けられました。ここから日本での生活が始まりました。

（２）JIAM 日本語研修

5 月 26 日から、滋賀県大津市にある全国市町村国際文化研修所（JIAM）で日本語を勉強しました。この１ヶ月間に、日本の文化や礼儀、地方自治制度などを学び、そして高齢化などのいろいろな社会問題を議論しました。７ヶ国から来た 31 名の研修員が JIAM に集まり、グローバル化したようでした。週末は、みんなを誘って名所に見学に行って、京都の清水寺、金閣寺、嵐山など素晴らしい場所の思い出を残しました。このメンバーの中で一緒に勉強や食事、スポーツをして、学生時代に戻ったようですごく楽しかったです。

JIAM で仲間とバトミントン

（３）専門分野の研修

７月８日に、私は滋賀県の JIAM を離れ、富山県高岡市に来て４ヶ月半の専門

研修が始まりました。私の研修部署は、国際交流室、下水道管理課、下水道建設課、水道局、環境政策室と環境サービス課の６つの部署でした。

①国際交流室（7 月 12 日から 7 月 16 日、11 月 8 日から 11 月 19 日）

国際交流室での一週間には、高岡市の高橋市長を表敬訪問し、私の研修に対して大きな期待を寄せてくださいました。私は将来、学んだ知識を中国に持ちかえって故郷の環境のために力を尽すことを決心しました。また、国際交流室の坂田さんが高岡市の経済、文化、風俗などを紹介してくださいました。そして私を連れていろいろな名所を案内してくれました。高岡市のことを理解することができました。

②下水道管理課（7 月 19 日から 8 月 6 日まで）

私の故郷の瀋陽市の下水道は、汚れた水と雨を合流して処理します。このため、処理場の負担が重すぎて、雨量が大きくなった時には、たまった水がいっぱいになります。

下水道管理課の仕事は、雨水と汚水の分流や都市汚水の処理、住民下水道の維持などです。高岡市四屋浄化センターでは、処理した汚水の水質を観測することを勉強しました。汚水の処理率が 100%に近く、処理率の高さにびっくりしました。病院の汚水を取って検査するプロセスも体験しました。職員が仕事に対して、責任感を持って一生懸命取り組んでいる態度も深く印象に残りました。

下水道建設課で工程完了検査

③下水道建設課（8 月 9 日から 8 月 27 日まで）

高岡市の下水道の設計と建設は、完備なシステムがあります。下水道建設課では、雨水・汚水分流設計、工事完成検査、道路の測定、下水道管線を進めることなどの業務について研修しました。また、いろいろな企業の見学に行くことができました。富士コン株式会社では、管線製作と五位ダムの容量分配問題を見学し、有限会社技建工業では、管線を敷設する前に、激流の中に薬を入れて激流を凝固させる現場を検査しました。CK 金属株式会社では、汚水処理システムが動いている状態を見学しました。

④水道局総務課（8 月 30 日から 9 月 3 日まで）

8 月 30 日から 9 月 3 日まで、水道局総務課で研修しました。高岡市の飲用水は、ダム水、地下水、河川水の三つの場所から手に入れます。飲用水は、浄水場で処理してから配水池の中で蓄えられてポンプで圧力し、住民は直接水道管からきれいな水を飲むことができるのです。また、清水町配水塔資料館、佐野取水場などの水道施設に見学に行きました。平成 22 年度の水道事業災害を防ぐ訓練にも参加しました。

⑤水道局工務課（9 月 6 日から 9 月 10 日まで）

南部浄水場と五位浄水場の見学や、飲用水の管線の敷設と施工を勉強して設計書を自分で作成しました。

⑥水道局施設維持課（9 月 13 日から 9 月 16 日まで）

施設維持課の仕事は、水道管を安全に運転することです。沢川浄水場の飲用

水機の洗浄や、保護を勉強しました。

⑦水道局営業課（9 月 20 日から 9 月 24 日まで）

水道管線のコンピュータの設計プロセスを見学し、無線検針機の使い方を勉強しました。この機械を使うと数分で水をどれぐらい消費するかがすぐ分かります。効率がとても高いです。日本の電子技術は本当に発達していると思います。

⑧環境政策室（９月 27 日から 10 月 15 日まで）

高岡市能町にある中越パルプ工業(株)高岡工場から排出する気体を調査する先進の環境保護システムを見学しました。また、富山の名水を化学検査したり、水温を測ったりすることを見学しました。このほか、富山県立大学で楠井教授の水処理に関する講座を聞きました。高岡市の公共交通を体験し、安全教室にて安全教育も受けました。

⑨環境サービス課（10 月 18 日から 11 月 5 日まで）

ゴミの分類収集、ゴミの処理、ゴミの最終処理などを見学し、日常生活によく使うものがゴミから再利用されているものであることがわかりました。日本の環境保護意識は私たちが勉強しなければならないことです。

専門研修のほか、富山での研修期間中に様々なイベントに参加しました。立山登山や茶道体験、着物を着る体験など、面白くて楽しかったです。そして自分の出身地を高岡市の皆さんに紹介する機会をもらい、自分の表現能力を高めることができて、すごく嬉しかったです。

３　帰国後の展望

時間が経つのは早いです。６ヶ月間の研修生活があっという間に終わったと思います。富山は美しいところだと思います。山も海もあって人間もすごく優しくて親切です。先生や同僚、たくさんの友達から、日本の文化や生活習慣、風俗などを習い、時間が経つに従って、日本の生活がどんどん好きになりました。日本に来て、皆さんにいろいろなお世話になり、心から感謝しています。皆さんのおかげで、この半年間、無事に研修ができました。本当にありがとうございました。皆さんと一緒に働いたり、勉強したりして、深い友情を結ぶことができて、本当に嬉しいです。この半年の研修でいい経験をたくさんすることができて、一生の宝として忘れることはないでしょう。国へ帰って、富山県で学んだ環境保護技術を活用して、遼寧省の環境保護事業に自分の力を尽くしたいと思います。

着物を着てとやま祭りに参加

最後に、(財)自治体国際化協会、富山県国際・日本海政策課、(財)とやま国際センター、高岡市国際交流室、下水道管理課、下水道建設課、水道局、環境政策室と環境サービス課などの仲間に心から感謝します。皆さん、どうもありがとうございました。